

水稲新品種「ナンゴクモチ」について

橘高昭雄・向井康・上野貞一・衛藤信男

(宮崎県総合農業試験場)

KITSUTAKA, A., MUKAI, Y., UENO, S. and ETO, N

A New Rice Variety "Nangoku -mochi"

水稲南海糯44号は、昭和44年から宮崎県で奨励品種に採用され、「ナンゴクモチ」として普及に移されることになったので、育成経過および特性の概要をのべて参考に供したい。

来歴および育成経過

ナンゴクモチは昭和37年、宮崎県農業試験場において、南海糯22号を母、ホウヨクを父として交配し同年晩期栽培でF₁を、翌年F₂~F₃を集団で世代促進し39年個体選抜を行ない、以後系統育種法により選抜固定をはかったものである。昭和42年より「南海糯44号」の系統名で関係県に配付して地方的適否が検討され、その結果、昭和44年水稲農林糯206号として登録され「ナンゴクモチ」と命名された。

特性の概要

1 形態的特性 稈長は日向糯より25~30cm短かく、穂長は同程度で穂数のやや多い短程中間型の糯種、葉の大きさ中、草状はやや直立状、稈はやや細く弾力性に富み、無芒で稈先色は白、粒着中、脱粒性中、玄米は中形中粒、品質、餅質ともに良好である。

2 生態的特性、出穂期は日向糯より4~5日、成熟期は7~8日早い中生種、倒伏抵抗性は日向糯より強くタチカラ程度、いもち病にもやや強で、日向糯より強く農林22号程度、白葉枯病には強で、日向糯より強くホウヨク程度、紋枯病は中位である。生産力は、九州、四国の大部分の県で揃って高くかつ安定している。

適地および奨励品種採用県

安全性が揃って高いこと、熟期、草型からみて、九州、四国平坦部の大部分に好適すると考えられる。宮崎県では、沿海~高台地帯にかけて、日向糯、神力糯1号に替えて1,500ha程度の普及が見込まれている。

栽培上の注意

従来糯品種にくらべ、倒伏抵抗性が著しく改良

一般特性

項目	ナンゴクモチ	日向糯	ホウヨク
出穂期	9.2	9.7	8.31
成熟期	10.12	10.20	10.10
稈長(cm)	84	111	88
穂長(cm)	21.6	21.3	19.9
穂数(本/株)	17.1	16.7	17.5
芒の有無・長短	無	無	少・中
稈先色	白	白	白
脱粒性	中	やや易	中
倒伏抵抗性	やや強	弱	強
葉いもち病抵抗性	やや強	弱	弱
穂いもち病抵抗性	やや強	やや弱	弱
白葉枯病抵抗性	強	やや弱	強
a 当り玄米重(kg)	53.5	50.6	55.6
玄米千粒重(g)	21.8	21.7	22.2
玄米品質	中上	中上	中中
調査地	宮崎県総合農業試験場		
調査年次	S42, 43年平均		

されており、病害抵抗性も従来のもより揃って強くなっているので栽培し易く、適応地帯も広いが、ホウヨクに比べるとなお倒伏抵抗性はやや劣り、草状もやや直立性をくずし易く、過繁茂になり易い傾向はいなめないの、稈短程種ほどの多肥条件はさけたほうが安全である。

稈先色がついていないので採種の場合は注意すること。

命名の由来

暖地の糯品種として適することを示す。